

没後 100 年 磐田の偉人 赤松則良



今年は、近代日本造船技術の先駆者で、明治期に磐田原

台地で茶園を開拓した赤松則良が亡くなって、ちょうど100年になります。磐田の偉人の一人である赤松則良がどのような生涯を送ったのか、没後100年の今、振り返ります。

江戸から世界へ

則良は、江戸幕府の幕臣吉沢雄之進の次男として江戸で生まれました。そして弘化4年（1847年）に、父方の祖父である赤松良則の後を継ぎ、赤松姓となりました。

安政4年（1857年）に長崎海軍伝習所に入所して航海術などを学ぶと、万延元年（1860年）には、アメリカとの修好通商条約批准書交換の使節に随行し、勝海舟が艦長を務め、日本の軍艦として初めて太平洋を横断した咸臨丸で、艦の運航に尽力しました。

その後、幕府の命でオランダに留学すると、榎本武揚らとともに西洋の造船技術や法学などの知識や技術を学びました。し

企画展のお知らせ

赤松則良没後100年記念企画展
男爵・赤松則良を巡る人々

没後100年を迎えるに当たり、師と仰ぐ勝海舟や近代日本経済の父といわれる渋沢栄一など明治の英傑たちのほか、遠州地方の豪農や豪商たちなど、赤松則良と多くの人間との関わりを巡る中で、その生涯を追います。

▼とき

10月6日(火)まで、左記開館時間

▼ところ

旧赤松家記念館 内蔵ギャラリー

▼入場料

無料



かし、慶応4年（1868年）に、大政奉還を知ると、留学を中止し、日本へ帰国しました。

帰国後は造船技術者として明治政府の海軍整備に尽力し、主船寮長官、横須賀造船所長、佐世保鎮守府の初代長官などの要職を歴任しています。明治20年（1887年）に勲功により男爵を授与され海軍中将となり、明治25年（1892年）の退官後には、貴族院議員に当選しました。



▲佐世保鎮守府長官の則良（前列中央）と幕僚たち

磐田での軌跡

江戸幕府崩壊後、徳川家が一大名として静岡藩主となった頃、現

在の静岡県内に溢れた2万人も
の幕臣（藩士）を養うため、則良は静岡藩士として磐田原、牧之原など藩内を視察しています。

明治初期からは、磐田原土地の開墾に叔父の宮崎泰道とともに取り組み、約20畝の茶園を開いています。大藤にある則良所有の茶園には、明治18年（1885年）に競馬場が造られ、大いににぎわったそうです。その後、明治26年（1893年）には、見付へ本籍を移しました。

則良は、大正6年（1917年）に貴族院議員職など全ての公職を辞しています。晩年は、多くの孫たちに囲まれ、平穏な生活を過ごしていたといわれています。こうして、則良は大正9年（1920年）9月23日、79歳の生涯を閉じました。



▲大礼服姿の晩年の則良

（参考：磐田市史 通史編 下巻）



▲旧赤松家の門・門番所（県指定文化財）

市内に残る則良の遺産

市内には則良が、明治20年（1887年）代から明治30年（1897年）代に建築した邸宅が残っています。

旧赤松家に現存する建物には、門・堀・土蔵があり、レンガを巧みに積み上げて明治の面影を残した「門・門番所」は県指定文化財に、「米蔵」や「図書蔵」は市指定文化財となっています。現在は、旧赤松家記念館として、赤松家にゆかりの品々を展示し、一般公開しています。

アクセス

旧赤松家記念館

▼ところ

見付3884-10

▼入場料

無料

▼開館時間

午前9時～午後4時30分

▼休館日

毎週月曜（祝日または振替休日の場合は開館）

祝日の翌日（ただし土・日・月曜

日の場合は火曜日が休み）

年末年始（12月29日～1月3日）

▼問い合わせ

旧赤松家記念館 ☎・FAX 3610340

